

予 算 要 求 資 料

令和8年度当初予算

支出科目 款：教育費 項：教育総務費 目：教育指導費

事業名 高等学校における演劇等ワークショップ事業費

(この事業に対するご質問・ご意見はこちらにお寄せください)

教育委員会 高校教育課 高校総合支援係 電話番号：058-272-1111(内8663)

E-mail：c17786@pref.gifu.lg.jp

1 事業費 28,218 千円 (前年度予算額： 28,218 千円)

<財源内訳>

区 分	事業費	財 源 内 訳							
		国 庫 支出金	分担金 負担金	使用料 手数料	財 産 収 入	寄附金	その他	県 債	一 般 財 源
前年度	28,218	12,837	0	0	0	0	0	0	15,381
要求額	28,218	12,837	0	0	0	0	0	0	15,381
決定額	28,218	12,837	0	0	0	0	0	0	15,381

2 要 求 内 容

(1) 要求の趣旨(現状と課題)

社会構造のグローバル化が進む中、多様な他者と共に、協力・協働しながら課題を解決し、社会に貢献するためのコミュニケーション能力が求められている。しかしながら、近年、高等学校においては、自分をうまく表現することや他者とのコミュニケーションを図ることが苦手なことにより、学業や対人関係に行きづまりを感じる生徒や、日本語能力が十分でない外国人生徒が増加している。

プロの演出家や俳優等を講師として招へいし、演劇表現等のワークショップを実施することにより、自己表現を通して、生徒のコミュニケーション能力や自己表現力の向上を図り、自己肯定感・自己有用感を育む。

(2) 事業内容

- ・プロの演出家や俳優等を講師として招き、演劇表現等のワークショップを通じて、生徒に対しディスカッション、創作、表現等の活動を行う。
- ・高等学校における演劇等ワークショップ指定予定校 21校22課程

(3) 県負担・補助率の考え方

国負担1/2、県負担1/2

(4) 類似事業の有無

無

3 事業費の積算 内訳

事業内容	金額	事業内容の詳細
報償費	20,918	講師謝金
旅費	7,228	講師旅費
需用費	72	会議費
合計	28,218	

決定額の考え方

--

4 参考事項

(1) 各種計画での位置づけ

・第4次岐阜県教育振興基本計画

施策I 「豊かな人間性」の育成

1 多様な人とつながり、関わる力の向上と心の教育の充実

(2) 国・他県の状況

実績なし

(3) 後年度の財政負担

第4次岐阜県教育振興基本計画による

(4) 事業主体及びその妥当性

県立高等学校の生徒に関する事業のため、県が実施する

事業評価調査書（県単独補助金除く）

新規要求事業

継続要求事業

1 事業の目標と成果

（事業目標）

・何をいつまでにどのような状態にしたいのか

コミュニケーション能力や自己表現力の向上を図る演劇ワークショップを入学時の初期適応段階で実施することにより、生徒のコミュニケーション能力や自己表現力の向上を図り、自己肯定感・自己有用感を育むとともに、学校生活への適応力を高める。

（目標の達成度を示す指標と実績）

指標名	事業開始前 (R5)	R5年度 実績	R6年度 実績	R7年度 目標	終期目標 (R8)	達成率
①自分にはよいところがあると思う高校生の割合	84.3%		85.2%	90%	90%	

○指標を設定することができない場合の理由

（これまでの取組内容と成果）

令和3年度	<div style="border: 1px solid black; height: 80px; width: 100%;"></div> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和4年度	<div style="border: 1px solid black; height: 80px; width: 100%;"></div> <p>指標① 目標：___ 実績：___ 達成率：___ %</p>
令和6年度	<ul style="list-style-type: none"> ・プロの演出家や俳優等を講師として招へいし、指定校の1年生を対象に演劇表現等のワークショップを実施する。 ・ワークショップでの活動を通じて、生徒の自己肯定感や自己有用感を育むことができた。 <p>指標① 目標： <u>90%</u> 実績： <u>85.2%</u> 達成率： <u>95%</u></p>

2 事業の評価と課題

(事業の評価)

<p>・事業の必要性(社会情勢等を踏まえ、前年度などに比べ判断) 3:増加している 2:横ばい 1:減少している 0:ほとんどない</p>	
(評価) 3	自己表現やコミュニケーションを図ることが苦手な生徒が多いため、本事業は必要である。
<p>・事業の有効性(指標等の状況から見て事業の成果はあがっているか) 3:期待以上の成果あり 2:期待どおりの成果あり 1:期待どおりの成果が得られていない 0:ほとんど成果が得られていない</p>	
(評価) 3	自己肯定感や自己有用感を感じられていない生徒を支援するものとして極めて重要であり、それらを育む有効な手段となっている。
<p>・事業の効率性(事業の実施方法の効率化は図られているか) 2:上がっている 1:横ばい 0:下がっている</p>	
(評価) 2	担当と連携協力機関、実施校での業務分担や情報共有が適切に行われている。

(今後の課題)

<p>・事業が直面する課題や改善が必要な事項 多様な他者と共に、協力・協働しながら課題を解決し、社会に貢献するためのコミュニケーション能力の育成は、当該21校のみならず県内の多くの高等学校が抱える課題である。</p>

(次年度の方向性)

<p>・継続すべき事業か。県民ニーズ、事業の評価、今後の課題を踏まえて、今後どのように取り組むのか 令和7年度実施の県立高等学校21校を中心に対象校を精査し、継続実施する。</p>

(他事業と組み合わせて実施する場合の事業効果)

<p>組み合わせ予定のイベント 又は事業名及び所管課</p>	
<p>組み合わせて実施する理由 や期待する効果 など</p>	【○○課】